

自分の人生を自由に生きられる。 子供がいなくとも幸せなんだと思えるようになりました

湯河原(ゆうゆうの里) 後藤哲子様(78歳) 令和2年6月 一人入居

30代半ばで出会ったダンスが、私の生涯の支えとなりました

子供がいなかったので趣味が欲しいと思っていました。30代半ばでダンスパーティーに行つたのがきっかけで、ステップだけでも覚えたいと・・・ステップと言ってもワルツだけで20種類もあるし、タンゴやルンバも夫々にステップやターンがあるの。でも、先生に「ゆっくり覚えればいい」と言ってもらって、週3日の個人レッスンを受けることにしました。3年もすると先生に勧められて教師の資格を取り、その後教室の「アシスタント」になりました。音楽



ダンスパーティでワルツを踊る後藤様

にのって踊るのが気持ちいい。私はタンゴが好きです。今でもタンゴが流れるとまた踊りたくありません。主人が肺癌でステージ4の宣告を受けた時も、ダンスがあつたから、なんとか平常でいられました。

主人はピアノ教師。癌と戦いながら、市の文化祭で弾くシヨパンを練習しきって逝きました

主人は高校のピアノ教師で、自宅でもピアノ教室をやっています。麻雀とお酒とたばこが大好きな人でした。退職後は一年に一回は海外に行こうと決めて、ハワイやシンガポール、スイスなどに旅行しました。74歳で間質性肺炎と診断され、特に治療法もなく過ごしていました。がんセンターでいきなり肺癌のステージ4と宣告を受けました。余命一年です。すごいシヨックでした。主人は抗がん剤治療で毛が抜けて、食も細くなって行きました。そんななか、富士市高岡の文化祭でシヨパンの『別れの曲』を弾くように頼まれたおかげで、毎日2、3時間ピアノの練習をして、癌を忘れる時間

を与えていただけただけなのは幸せでした。残念なことに文化祭の二日前に亡くなり発表はできませんでした。亡くなった後の3年間は、寂しくて不安で本当に辛かったです。

子供がいないので40代の頃から老後の資金づくり

子供がないので40代の頃から、老人ホームの入る準備をしようと思つて老後の資金づくりを始めました。主人はお金のことは何も言わない人だったので、ボーナスは全部貯めておきました。私が67歳で一人になって、一人で倒れたらどうしよう、孤独死になってしまふと不安がずっとありました。実際に行動を起こしたのは70歳からです。富士市に近い7施設を見学しましたが、看取りも最後の最後までみてくれる施設はありません。そして「ゆうゆうの里」に行きつきました。伊豆高原で湯河原を知りました。自宅で猫を飼っていたので、しばらく行き来しやすいたことが大事だと思い、自宅からアクセスの良い湯河原を見学しました。ちょうど桜の季節で、桜の園みたいなのが良いなと決めました。

食事をつくらず一日を趣味に使えるのは「王侯貴族の生活」。それに孤独や不安からも解放されました

入居したら主婦の仕事はしないと決めて、3食を食堂でとると決めていました。その分趣味をやるうと、昔ならつた洋裁も楽しもうと思つてミシンを持つてきました。でも、忙しくてミシンは未だに箱に入つたまま。一日一個はどこかのサークルや行事に参加しています。麻雀は主人がやっていた時には、不健康極まりないし大嫌いでしたが、誘われて初心者3人で参加したら奥が深く面白く！主人がはまったのも分かる気がします。食事を作らず一日を趣味に使える毎日「王侯貴族の生活」みたいです。それと孤独死や病気になつた時の不安はありません。今は全部楽しい。入居してまだ二年半ですが、この友達は何年も前から友達のような気がします。入居前は、何で私だけ子供がいなくんだらうと感じることが心の片隅にありました。ここにきてからは、そんなことも考えなくなりました。幸せに暮らしています。

